

山口情報芸術センター [YCAM] 展覧会

The Flavour of Power

—紛争、政治、倫理、歴史を通して食をどう捉えるか？

2023年3月11日（土）～2023年6月25日（日）

山口情報芸術センター [YCAM] 2階ギャラリー, スタジオB

インドネシアを拠点とするアーティスト集団、バクダパン・フード・スタディ・グループによる日本初の個展

山口情報芸術センター [YCAM] では、YCAMが実施する研究開発プロジェクト「食と倫理リサーチ・プロジェクト」の成果を発表する展覧会「The Flavour of Power (ザ・フレイバー・オブ・パワー) —紛争、政治、倫理、歴史を通して食をどう捉えるか？」を開催します。

プロジェクトの過程で、インドネシアを拠点に活動する8人組のアーティスト集団、バクダパン・フード・スタディ・グループとともに食にまつわる倫理的な側面を探る調査を実施。おもに太平洋戦争中の日本とインドネシアの食における関わりから、農作物の遺伝子改変や単一作物の生産への依存（モノカルチャー）を取り上げてきました。展覧会では、これらのリサーチの成果を映像インスタレーション、カードゲーム、資料展示として発表します。このほか会期中、野草採取のワークショップやカードゲームの体験会なども開催します。

私たちにとって身近な「食」は、政治との関わりが多分に含まれています。本展を通じて、そうした関係が私たちの食に対する倫理観に影響を与えていることに気付かされるでしょう。この機会にぜひご参加ください。

この機会に、取材や記事掲載にご協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

[お問い合わせ]

山口情報芸術センター [YCAM] 学芸普及課
〒753-0075 山口県山口市中国町7-7

TEL: 083-901-2222 FAX: 083-901-2216 メールアドレス: press@ycam.jp ウェブサイト: www.ycam.jp

取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は上記までご連絡ください。



バクダパン・フード・スタディ・グループによるワークショップ
「プリーズ・イート・ワイルドリー」

食をめぐる多様な側面を再考するプロジェクト — 食と倫理リサーチ・プロジェクト



食と倫理リサーチ [リサーチ・ショーケース] (2021年) 撮影：ヨシガカズマ

YCAMでは開館以来、メディア・テクノロジーを用いた新しい表現の探求をおこない、美術や舞台芸術の分野においてオリジナル作品を多数制作、発表してきました。また、作品制作と同時に、近年は、急速な発展と同時に一般化が進むバイオテクノロジーの応用可能性を模索するプロジェクト「YCAMバイオ・リサーチ」をはじめ、さまざまな研究開発プロジェクトに取り組むことで、テクノロジーの表現への応用可能性を軸に、新しい価値観を提示すべく、活動を展開しています。

こうしたYCAMの研究開発プロジェクトのひとつに2021年からスタートした「食と倫理リサーチ・プロジェクト」があります。近年発生した新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大や、エネルギー危機や戦争は、さまざまな製品の生産や流通に大きな影響を及ぼし、それは食料品も例外ではありません。このプロジェクトでは、そうした状況を背景に、戦争や政治、経済、科学など、一見すると私たちに身近な食とは縁遠いと感じるかもしれないこうした要素が、食料品の生産やその消費行動にどのように影響を与え、どのような倫理的価値が介在しうるかを探求するプロジェクトです。

これまでYCAMのスタッフを中心に、インドネシアを拠点とする食にまつわるコレクティブのバクダパン・フード・スタディ・グループとともにリサーチを重ね、2022年1月から6月にかけては資料展示を行いました。そして今回、バクダパン・フード・スタディ・グループによる日本初の個展を開催し、作品展示や会期中に行うワークショップやイベントを通じて、これまでのリサーチの成果をご紹介します。

■ バクダパン・フード・スタディ・グループ (Bakudapan Food Study Group)



写真提供：バクダパン・フード・スタディ・グループ

バクダパン・フード・スタディ・グループは、8名の女性で構成される、食について語り合うアーティスト集団。彼女たちは食をお腹を満たすものとしてだけでなく、料理をはじめ、政治、社会、ジェンダー、経済、哲学、芸術、文化など、より幅広い問題について語るための道具にもなり得ると考えている。作品制作においては、アート、民族誌、リサーチ、実践を行き来しながら「食」に関して調査し、相互に参照しながら作りあげている。また、リサーチ活動においては、芸術表現（パフォーマンス、インスタレーション、展覧会など）から日常生活の実践（料理、ガーデニング、読書など）に至るまで、その方法や形態を探求し、実験することに関心を持っている。

「食」にまつわる倫理観を考える新作を発表

バクダパン・フード・スタディ・グループとのリサーチでは、これまでに太平洋戦争中の日本とインドネシアの食における関わりから、農作物の遺伝子改変や単一作物の生産への依存（モノカルチャー）を取り上げてきました。この過程で、国家による食糧政策が、私たちの食に影響をもたらす具体的な事例に触れてきました。本展のタイトルは、こうした政治的な権力闘争と食との関わりを示唆しています。

本展では、これらのリサーチの成果を、映像インスタレーション、カードゲーム、資料展示、ワークショップを通じて発表します。

インスタレーション作品

太平洋戦争中、インドネシアを占領統治した日本が実施した食糧政策は、現在に至るまでインドネシアの食糧システムに影響を与え続けています。スタジオBで展示する作品は、このことをテーマにした映像インスタレーション作品です。日本軍政下にインドネシアで発行されたプロパガンダ雑誌「Djawa Baroe（シンジャワ）」の記事を引用し、戦時中の食に関する物語を紐解いていきます。

このほか、戦前の日本統治時代の台湾で生産されるようになったコメの品種「蓬萊米（ほうらいまい）」に関するリサーチを中心に、食糧政策をマッピングした資料展示も展開します。

カードゲーム

ハンガー・テイルズ

食糧危機の旅に直接巻き込まれたような感覚をシミュレートするボードゲームです。本展に際し、日本語バージョンをYCAMと開発しました。

ワークショップ

プリーズ・イート・ワイルドリー ×YCAM バイオ・リサーチ

野山でフィールドワークをおこない、野草を採取し、身の回りの食べられる植物について学ぶワークショップです。野生の植物について理解を深めるためにDNA解析も実施します。

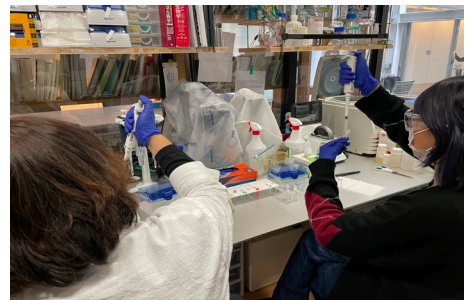


山口の農家を訪れ行ったフィールドワークの様子（2022年）



ハンガー・テイルズ

提供：バクダパン・フード・スタディ・グループ



YCAMでのDNA解析の様子（2022年）

開催概要

食と倫理リサーチ・プロジェクト

The Flavour of Power

— 紛争、政治、倫理、歴史を通して食をどう捉えるか？

2023年3月11日（土）～6月25日（日）10:00～19:00

山口情報芸術センター [YCAM] 2階ギャラリー、スタジオB

休館日：火曜日 入場無料

主催：山口市、公益財団法人山口市文化振興財団

後援：山口市教育委員会

助成：令和4年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業

技術協力：YCAM InterLab

企画制作：山口情報芸術センター [YCAM]

関連イベント

アーティストトーク

2023年3月11日（土）13:00～15:00

登壇：バクダパン・フード・スタディ・グループ

会場：ホワイエ 参加無料（要申込） 定員：30名（先着順）

本展の見どころや完成までのストーリーを聞くトークイベント。アーティストと共に食と倫理にまつわる問題について考えます。※ 逐次通訳有り

ブリーズ・イート・ワイルドリー×YCAM 바이오・リサーチ

2023年3月18日（土）・19日（日）／6月10日（土）・11日（日）

講師：岩光大祐、バクダパン・フード・スタディ・グループ、YCAMスタッフ

各回：10:00～16:00

集合場所：ホワイエ 対象：15歳以上

参加無料（要申込） 定員：10名（先着順）

講師とともに行う野草採取のワークショップです。

ギャラリーツアー

2023年3月11日（土）15:30～16:30、12日（日）14:00-15:00

3月25日（土）14:00～15:00、6月18日（日）16:30～17:30

参加無料（要申込） 定員：20名（先着順）

YCAMスタッフとともに作品を鑑賞するツアー形式のイベント。

ハンガー・テイルズ体験会

4月、5月の毎週土日 10:00-12:00／13:00-15:00／16:00-18:00

会場：2階ギャラリー

定員：3～4人 対象：12歳以上 参加無料：要申込（先着順）

展示作品のひとつであるカードゲームを実際にプレイできる体験会です。

関連上映

3月4日（土）～21日（火・祝） 会場：スタジオC

「百姓の百の声」（2022年／日本／130分／監督：柴田昌平）

※上映スケジュールやチケット料金などはYCAMのウェブサイトをご覧ください。そのほかにも特集上を予定しています。

■ 申込方法

ウェブサイトからお申し込みください。

ウェブサイト：

www.ycam.jp